

テーマ：北方領土（実践校）

上川管内 中川町立中央小学校

本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、総合的な学習の時間と社会科の学習を関連させて、北方領土の自然や歴史等について調べるとともに、北方領土の語り部を外部講師とした講話等を通して、北方領土の特色や自分たちの地域の様子や生活との関わりについて探究的に学習しました。

ふるさと教育・観光教育の実践内容

単元の目標

北方領土について、自然や歴史等について調べる活動や外部講師の講話等を通して、北方領土の自然や歴史、領土問題等について理解するとともに、自分で課題を設定し、調べたことをまとめ、北方領土のよさについて自分の考えを発信したり、地域のよさを再発見したりすることができるようにする。

取組の様子

（1）課題の設定

「北方領土のよさを発見しよう」という学級全体の課題から社会科で学習した内容について振り返るとともに、パンフレットや資料を活用して、自分の課題を設定しました。

（2）情報の収集

自分の課題解決に向けて、北方領土の語り部に島々のよさに関わることや疑問に思ったことなどを質問するとともに、パンフレット等の資料やインターネットを活用して、情報を収集しました。

（3）整理・分析

1人1台端末を活用し、地図や資料、動画から読み取ったことや分かったこと、心に残ったこと等を整理し、課題解決の見通しをもつとともに、北方領土の特色や自分たちの住む地域の様子や生活との関わりについて理解を深めました。

（4）まとめ・表現

児童一人一人が作成した壁新聞の交流を通して、北方領土の自然や歴史、領土問題等について理解を深めるとともに、北方領土のよさや自分たちの住む地域のよさについて考えることができました。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

- ・児童一人一人の課題解決に向けて、情報収集の際に1人1台端末を活用し、各自が調べた資料等を他者参照できるようにしました。
- ・オンラインによる語り部の講話を聞くなど、ICTを活用して教師や学級の仲間以外の方と協働的に学ぶ場面を設定しました。



【講話の様子】



【児童が作成した壁新聞】

実践の振り返り

- ・「北海道ふるさと教育指導プログラム」を活用するとともに、児童が設定した課題について探究的に学習を進めたことにより、学習後のアンケート調査では、「今、住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」と回答した児童の割合が45%から63%に、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め、まとめて調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した児童の割合が54%から90%に増加しました。
- ・外部人材の講話をオンラインで行ったり、総合的な学習の時間を中心に、各教科等との関連を図った教育課程を編成するなどのカリキュラム・マネジメントの充実を図ったりすることにより、自分たちの住む地域やふるさとへの愛着や誇りをより一層育むことが期待できます。